

# おくまんさま

令和5年9月1日 第90号 大祭特集号

はじめに

早いもので今週末に大祭となりました。今号ではこれまで紹介した以外の大祭の見どころを紹介いたします。

熊野神社

おくまんさまは今から八百年前の承元元年に創建された歴史ある神社です。拝殿は慶安五年には存在した記録があり、三七〇年以前から存在する建造物です。平成二十六年に国の登録文化財に指定されました。明治維新後だけでも八回の熊野神社大祭の記録があり、今年は今和に入ってから初めての大祭となります。



神輿渡御行列



神輿渡御行列は熊野神社を創建した鎌倉時代の湯野沢領主平友康、通称熊野三郎が紀州熊野より熊野大神を湯野沢にお連れする様を再現した行列です。

行列は祓役、神社役員、郷社旗、猿田彦、熊野太鼓、大榼、弓、諸締命、熊野三郎命、五色旗、神輿旗、御旗、稚児、御神輿、神職、御鉾からなる行列です。一日目は宮司宅から稲荷神社まで、二日目は稲荷神社から熊野神社まで巡幸します。

熊野三郎、諸締命、烏天狗

神輿渡御行列には独特な供奉者がいます。一人目は直垂姿の武士で先に紹介した熊野

三郎命です。



二人目は菅笠をかぶりと菅蓑を着て脚絆をつけ草履をはいた人で、これは山伏の旅姿です。諸締命といい、熊野神社創建時に紀州熊野三山から御分霊を湯野沢にお連れしてきた人です。



三人目は猿楽面をつけて太鼓を打ち鳴らす二人組です。この二人は烏天狗といい、神様の道行きを知らせる熊野太鼓を打ち鳴らす神様です。



百足獅子



大祭行列の先頭を行くのが百足獅子です。百足のようにジグザグに動きながら村中を回ることからその名がつけました。頭は明治十五年に葉山の山奥から切り出した栃の木から連中頭の秋場政右エ門さんが彫り、東根六田の塗師工藤正蔵氏が塗り上げたものです。平成二十五年に頭の修理、塗直しを行いました。

鹿子本踊



大祭二日目に大祭本部前で舞われる鹿子踊は通称本踊り

といわれ、初めの曲から最後の曲まで通して舞います。始めの舞から終わりの舞まで一時間近くかかる大掛かりな舞です。

### 豊栄舞

豊栄舞は神社の祭礼で奉納される巫女舞です。大祭二日に大祭本部前と熊野神社神事で舞われます。基本的に神事中は見られませんので、大祭本部前で華麗な巫女舞をご覧ください。



### 水垢離

大祭初日朝に行われる大祭祓式直後、神輿行列代表が水垢離をとります。大祭の成功と安全を祈願し、豪快に水をかぶります。



### 熊野神社奉幣式

大祭最後の行事である奉幣式は神事で非公開ですが、明治初めの神事を古式のまま踏襲しています。



### 注意！その一

七月の夜間に一回だけ神社境内を熊が歩いていました。それ以来熊は出ていませんが、神社にお参りの際は日中でもラジオ等の音が出るものを持ち、音を出しながら歩いてください。もし熊を見かけた場合は近寄らず正面を向けたま

まゆつくりバックで下がってください。特に子熊の場合は近くに母熊がおり大変危険です。周囲を確認して速やかにゆつくり退避してください。

### 注意！その二

八月に拝殿前に車で乗り付けた方がいらつしやいます。拝殿前は通路ではありません。また御社殿のすぐ近くであるほか、石畳、踏み石、狛犬があり、それらが破損する恐れもあります。今回被害はありませんでしたが、ナンバーは控えております。今後同じようなことをされて万一衝突して破損した場合は弁償していただくこととなります。車はなるべく階段下の駐車スペースに停め、風景を眺めながら階段をご利用になり御参拝ください。車で上まで来られる場合でも、車は本殿横から前には入らないでください。今後車止めを設置する予定です。くれぐれもよろしくお願

### 付記一

以前の「大祭特集号」を読んだ方からご指摘をいただきました点について二、三紹介します。

まず奴の腰に着ける物ですが、現在の奴は帯を締め脇差を差した他にキセル、煙草入れ、根付を付けています。いずれも誇張された大きなものですが、大祭では奴の服装に注目していただくと面白いと思います。

### 付記二

かのこ踊は鹿の子踊と書くのか？鹿子踊と書くのか？昨年発行した富本村史の原文には鹿子踊と記載されています。最近の資料には鹿の子踊と記載されているようです。獅子踊と書いてしまうのは誤りですが、とりあえずは鹿子踊でも鹿の子踊でもどちらでも誤りではないと思います。

なお、長松院に奉納された鹿子踊の絵には御大典記念と

記載されており、明治三十二年ではなく大正五年奉納の絵と判断できます。

### あとがき

大祭まであとわずかとなりました。実行委員会をはじめとする関係者の皆様本当にご苦労様です。今回の大祭は小・中学校にも授業の一環としてご協力をいただき、若い力を得て大祭も盛り上がるころと思います。また宮司の所にも「山形駅にもポスターがはってあったよ。」などというお声があり、かなり広く宣伝もされているようです。今年に入ってコロナ感染症も五類引下げとなり、大祭ではこれから日本が復活し発展するように祈り、神事を行います。地区民皆さんで協力し大祭が大成功となりますようにがんばりましょう。

